

巻頭言

「誰一人取り残すことのない教育」の実現をめざして

釧路市教育委員会 教育指導参事 本川 敬一

新しい年度がスタートして2カ月余りが経過していますが、この間、1次訪問や経営訪問などで多くの学校を訪問させていただいております。その中で実に短時間ずつではありますが、全学級、全教師の授業を参観させていただいております。また、同時進行的に教育長による学校訪問も実施し、それぞれの訪問での様子や感想も指導主事を含めて教育長と共有しております。

現在、山積している教育課題の中でも、釧路市においては特に「学力向上」「授業改善」がキーワードとなっていることは、すべての先生方が認識していることと思います。それゆえ、学校訪問時には校長先生や研修担当の先生の口からは、どの学校でも必ずと言ってよいほど「釧路市が目指す授業」というワードが出てきます。これについては、授業改善について釧路市のすべての学校、すべての先生方が同じ方向を向いて取り組まれていることに敬意を表しますとともに心強くも思っております。

事実、小学校はもとより中学校においても子供たちが主役となっている授業、子供たちの声が響き渡る授業は昨年度よりもかなり増えている印象ですし、Chromebookの授業での活用場面にも出くわすことが多くなっています。しかし、依然として講義型のチョーク&トークの授業がまだ行われている実態があるのも残念ながら否めない事実です。

そのような中で、子供たちの話し合いの場面はあるのですが、「これはいったい何のために行っているのか?」と思えることもあります。例えば、せっかく近くの友達やグループで話し合いが行われた後、一斉の場面になったとたんに教師が一方的にまとめを行う。話し合っているが視点が定まっていない。ICT機器は使用しているが、単に教科書を拡大してスクリーンに映しているだけ。活動、対話、アクティブな姿は見られるのですが、その目的は何なのか? 必要性はあるのか? 学びはあるのか? と思えることもあります。かつて、その時々で話題となった、「活動あって学びなし」になってはいけません。Chromebookも多くの授業で使われていますが、自分の意見を書いたものを、ロイロ・ノートを活用して、他の子供がそれを参考にしていたり、全体での話し合いに活用したり・・・といった効果的な活用場面も多々見られるようになってきました。知的学級の児童が一生懸命ローマ字入力で文章を書いている場面にも出くわしました。多くの授業で Chromebook が日常的に使われるようになってきたからこそ、今度は「ただ使う」から、「いかに効果的に活用するか」という段階に入ってきたと言えます。

中央教育審議会が「誰一人取り残すことのない『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」と提示してから、もう4年が経ちます。「誰一人取り残すことのない」は日々の授業場面ではもちろんですが、特別支援教育の場や不登校児童生徒への対応においても言えることです。つまりすべての教育活動を通して、受益者の立場に立って、すべての子供たちに対して行われなければいけません。

今、授業改善が進んでいるからこそ、その学習活動の目的は何か? 常に目的意識をしっかりとって、授業改善に取り組み、「誰一人取り残すことのない教育」の実現にオール釧路で取り組みましょう。

■「釧路教育」第317号 contents■

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1 巻頭言 | 教育指導参事(釧路教育研究センター所長)の巻頭言です。 |
| 2 研究グループの紹介 | 釧路教育研究センター研究グループ 今年度の活動紹介です。 |
| 3 釧路教育研究センター機構図 | 令和6年度釧路教育研究センターの運営体制の紹介です。 |

研究グループ 今年度の活動

釧路教育研究センターでは、北海道及び釧路市における教育目標と教育推進の具現のため、3つの研究グループを設置し、実践的な研究・調査を進めています。今回は各研究グループの活動について紹介いたします。

郷土読本・地域学習研究グループ



郷土読本・地域学習研究グループでは、小学校第3・4学年の社会科での学習を中心に活用されている、郷土読本「くしろ」の編集・改訂を中心に活動をしています。

今年度、当グループでは、2つのことを軸に活動を進めていきます。

1点目は、「ふるさと教育の推進」です。ふるさと教育の在り方についての理解を深めるために、釧路教育研究センター研修講座「地域への愛着をはぐくむ「ふるさと教育」の充実」において、「ふるさと教育」の実践をテーマにした授業を11月28日（木）に清明小学校で公開する予定です。推進にあたっては、昨年度作成した「ひと・こと・ものリスト」

も活用します。

2点目は、「郷土読本の部分改訂」です。昨年度は、教科書の改訂に伴い、内容の加筆修正ならびにロイロ・ノートの資料箱のデジタルデータを整理しました。今年度も引き続き、各単元の内容を精査し、内容構成を踏まえた上で、授業で活用しやすい郷土読本を目指して、作業にあたっております。また、郷土読本のデジタルデータについても、随時整備を進めていきます。

よりよい郷土読本「くしろ」を提供するとともに、ふるさと教育の推進役として、グループ委員一同尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

郷土読本・地域学習研究グループ委員 鵜橋 大志（興津小学校）

担当講座	期 日	会場
地域への愛着をはぐくむ「ふるさと教育」の充実	11月28日（木）	清明小学校

ふるさと教育における体験活動を推進するため、ふるさと教育に関連する学習の中で活用されている釧路周辺の人材や施設について調査し、「釧路ふるさと教育ひと・こと・ものリスト」に集約し、13の人材や施設を掲載しております。

資料については、令和6年3月19日付事務連絡で市内各校へ発出しております。ぜひご活用ください。



【釧路市ふるさと教育ひと・こと・ものリスト（一部）】

学習指導・開発研究グループ



学習指導・開発研究グループでは、「釧路市内各校における学習指導上の課題を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた算数・数学科の授業の構築を目的とし、1ヵ年計画で研究を進めて参ります。推進にあたっては、「釧路市が目指す授業」を基盤とし、授業実践を発信して参ります。また、全国学力・学習状況調査の結果を基に算数・数学科の授業づくりに焦点化し、以下2点の活動を行います。

1点目は、授業づくり短編動画の作成です。中学校第1学年を中心に学習指導に課題が見られる単元について、指導のポイントをまとめて紹介していきます。併せて、授業づくりについてのリーフレット等を作成し、先生方の日々の実践にお役立て頂けるように取り組んで参ります。2点目は、研修講座「小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」」の公開です。算数・数学科における、子供たちが主役の「学ぶ意味と楽しさを感じられる授業づくり」を研究し、その成果を提案授業という形で先生方に紹介させて頂きたいと考えております。

先生方の授業実践の一助となるように取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願い致します。

学習指導・開発研究グループ委員 我妻 萌子(中央小学校)

担当講座	期 日	会場
小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」	未 定	未 定

子ども支援研究グループ



子ども支援研究グループは、釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、教育相談や保護者対応の考え方やカウンセリングの方法などの研究や実践を積み重ね、その成果を発信することを目指しております。

今年度は、「児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質や能力、態度を形成するように働きかける教育相談の在り方」について、1ヵ年計画で研究を進めていきます。令和4年12月に文部科学省が発行した「生徒指導提要」を活用しながら、「教育相談」の基本的な考え方や進め方について確認し、これまでの教育相談への考

え方や方法を見つめ直すところから研究をスタートさせています。現在、研究グループ内で、小学校と中学校での面談方法の違いや、児童生徒や保護者との教育相談時の課題など学校現場の実態について交流しています。今後は、釧路市内の先生方のニーズや悩みを把握し、教育相談のカウンセリングのテクニックや、明日からの実践で活用できるような事例を紀要にまとめていく予定です。グループ一同、対話を積み重ね、先生方の声に耳を傾けながら活動していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

子ども支援研究グループ委員長 齋藤 政人(幣舞中学校)

研究センター 機構図

